



片目の大移動

- ウシノシタとその仲間 -

新年あけましておめでとうございます。今年^{しんねん}は丑年です。みなさんにも色んなところからウミウシの写真や絵の年賀状が届いたことでしょうか。アムスルだよりでもウミウシの話をしようと思ったのですが、もう12年前に書いていました。しかたがないので、今回はウシノシタの話をしましょう。

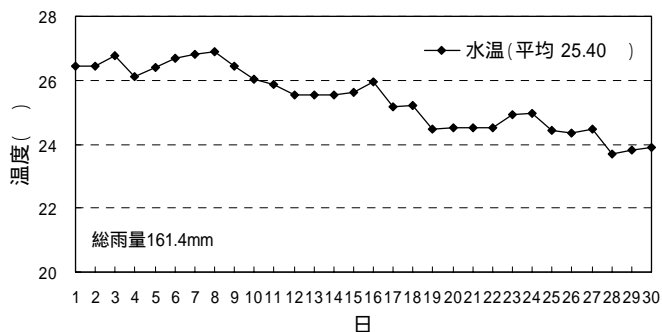
ウシノシタは、「牛の舌」です。平らでやや長細い体の形がその名前の由来です。魚としては本当に変な形ですが、これは体が上下にぺちゃんこになって平らな形をしているわけではありません。ウシノシタの場合は、体を寝かせて平らに見えているのです。たとえば体の薄いチョウチョウウオのような魚が海底に寝そべっているところを想像してもらえば、それがウシノシタの姿なのです。ただ大きく違うのは、寝そべって暮らすのに都合が良いように、寝ると下になってしまう

方の目が、ぐっと動いておもて側にある、ということです。“ぐっと動いて”と書きましたが、これは本当に動くのです。とは言え、もちろんいつでも自由自在に動かせるというわけではなく、成長しながらゆっくりと移動してゆきます。たとえばササウシノシタという種類の場合、体長2mm弱の生まれたての稚魚は、ふつうの魚と少しも変わりなく、ちゃんと左右に目が1つずつ付いているのですが、5mmをこえるくらいになるとだんだんと片方の目がもう1つの目に近よっていき、体も横だおしになって、8mmになるころにはすっかり目が体の片方に移動してしまうそうです。実は、こういう魚は、ウシノシタの仲間だけではありません。もうみなさんの中には気づいている人も多いと思いますが、カレイやヒラメも同じように成長しながら目の位置や泳ぎ方を変化させる魚です。そして、これらの魚は“カレイ目”という1つのグループに属しているととても近い仲間です。また、この仲間は、このように体の右側と左側の様子がずいぶんと異なっているため、“異体類”とも呼ばれます。

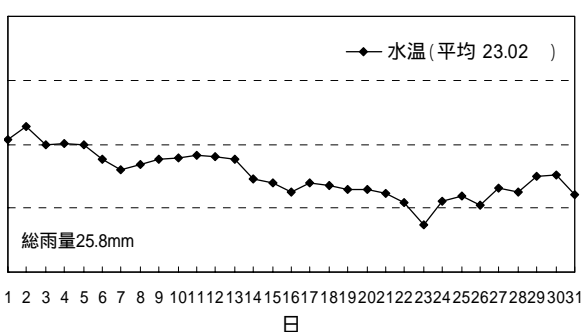
さて、この異体類の魚たち、「体を寝かせている」と書きましたが、では左右どちらの面を上に向けているのでしょうか。みなさんは「左ヒラメの右カレイ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。ヒラメとカレイを区別するときには使うのですが、つまり、口が手前になるよ

定点観測

2008年 11月



2008年 12月



うに魚を置いたとき、頭が左側にきたらヒラメで、右にきたらカレイということです。ふつうの魚では口は体の下側にあるものですから、ヒラメの仲間でおもてになっている面は左の体側、カレイの仲間では右体側ということになります（実はカレイの仲間でもヌマガレイは例外で左なのですが）。もっと書くと、ダルマガレイの仲間は、ヒラメと同じで左側です。では、ウシノシタの仲間はどのように。実はウシノシタには2つのグループがあり、いわゆるウシノシタの仲間は左側、もう一つのササウシノシタの仲間は右側を上にしていて、この2つのグループを分ける目印になっています。

ウシノシタ、つまり“牛タン”というわけですが、焼肉の牛タンはとてもおいしい食べ物ですが、ではこのウシノシタはどうでしょう。ヒラメやカレイと同じ仲間なのですから、おいしくないわけがありません。フランス料理で有名なシタビラメは、このウシノシタの仲間のことです。ただし、これは主に内地の話で、慶良間ではどういうウシノシタが獲れて、食べられているのかわかりませんでした。よく食用にされるアカシタビラメやササウシノシタも分布しているはずなので、きっと食べられているだろうと思うのですが、もし情報をお持ちの人がいたら、ぜひ教えてください。

今回紹介した異体類の魚たちは、主に砂

地で暮らしています。ときには体長40cmをこえるアマミウシノシタが砂にもぐっていたり、砂に溶け込むような模様のダルマガレイの仲間がいたりします。また別の機会には、そうした異体類たちの暮らしぶりをお話したいと思います。

阿嘉島の海より

12月19日、あか・げるまダイビング協会のみなさんとマジャノハマでサンゴの移植をおこないました。今回移植したのは研究所のいけすで卵から^{ようしょく}養殖したサンゴで、生まれてから1年半ほどのものです。大きさは大きいもので5cmくらいに育っていました。自然のサンゴはふつう海底の岩などにくっついていますが、養殖のサンゴは岩の代わりにタイルにくっついて育ちます。それを水中ボンド(水中でも固まる^{せつちやくざい}接着剤)を使ってタイルごと丁寧に海底に固定していきましました。今回は200~300枚のタイルを固定しました。実はダイビング協会のみなさんとの養殖サンゴの移植作業は数年前から毎年おこなっていて、一昨年には阿嘉小学校の子供たちともおこないました。どのサンゴも順調に育っていて、これらのサンゴが産卵するのが待ち遠しいです。

